



全国書誌の促進 —IFLA書誌分科会の取組—

令和6年3月1日 令和5年度書誌調整連絡会議

国立国会図書館 収集書誌部
収集・書誌調整課 村上一恵



目次

1. IFLAの概要
2. IFLAによる全国書誌の促進
3. 書誌分科会の取組
4. これからの「全国書誌の促進」

用語「書誌データ」「書誌レコード」について、本報告では
会議及び文書等のタイトルで「レコード」としているものはそのまま、
ほかは主として「データ」とします。

Is your bibliography registered?



52
National
Bibliographies
registered
Worldwide

130 million +
records
and
counting!



Contribute to the global record of cultural and intellectual publishing output



Show **trends** in
digital publishing

Share your
bibliographic
control
practices
with other
libraries



Visit
<https://www.ifla.org/g/bibliography/national-bibliographic-register/>
to contribute

1. IFLAの概要

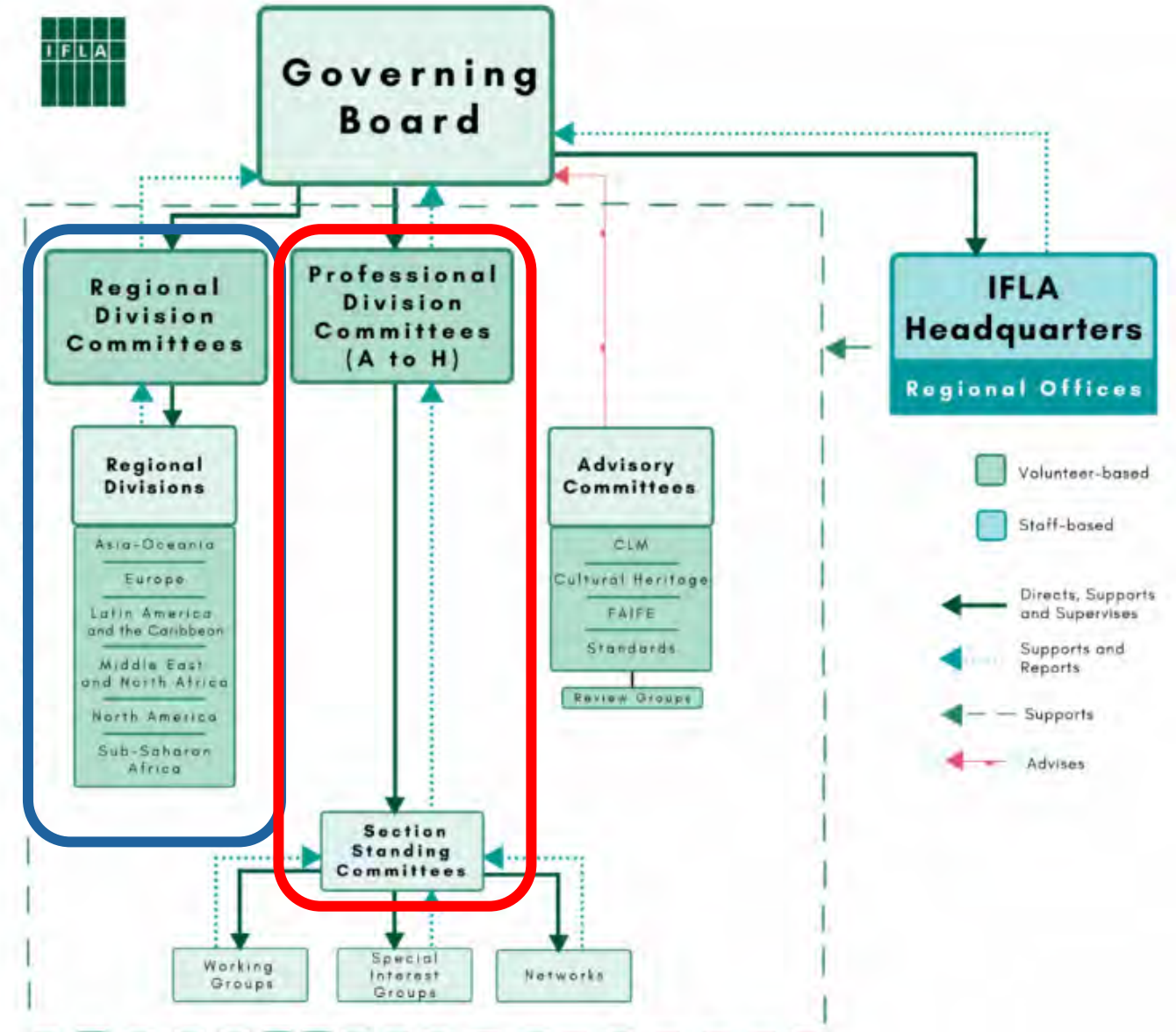
● 国際図書館連盟(IFLA)

International Federation of Library Associations and Institutions

図書館活動の全分野にわたって国際的な規模での相互理解・協力, 討議, 研究・開発を推進することを目的として, 1927年に設立。

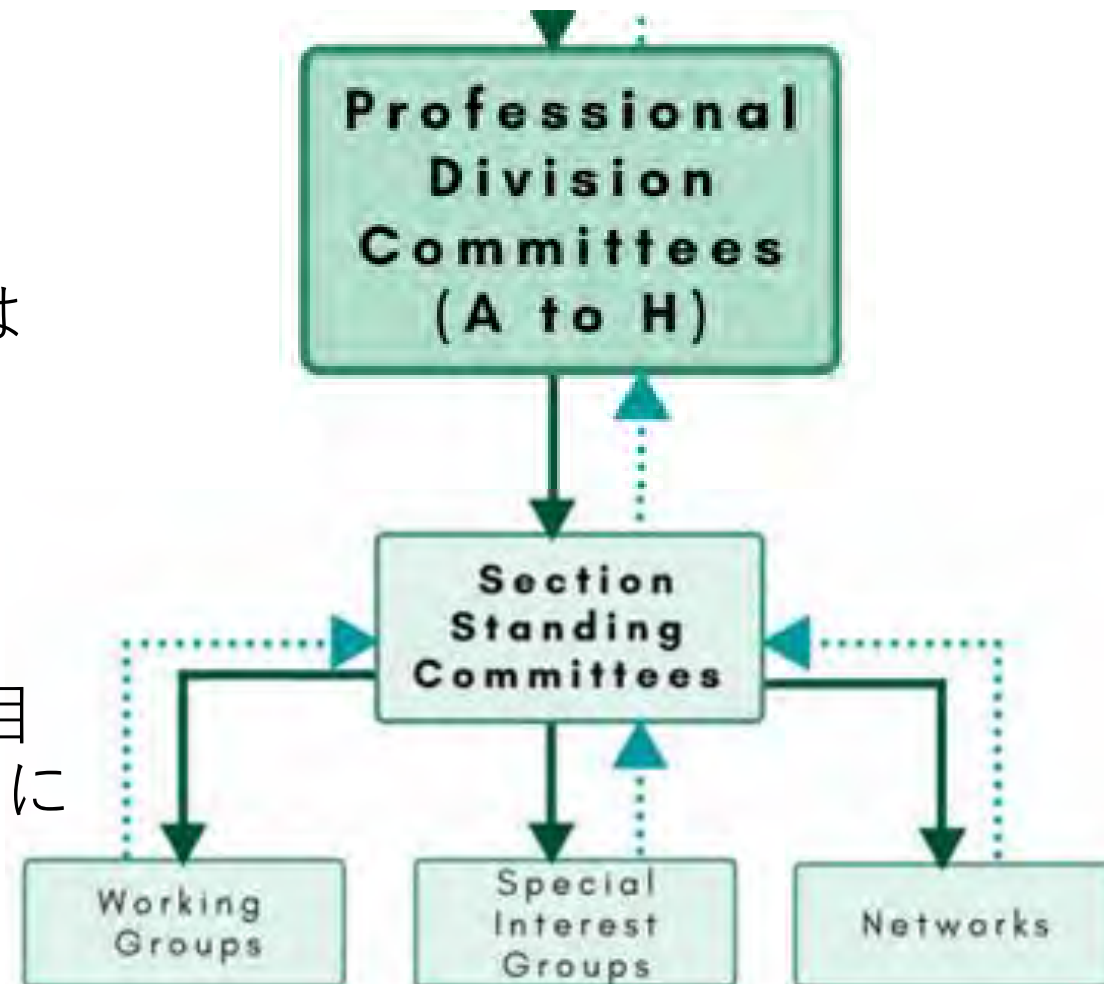
世界各国の図書館協会や図書館・教育研究機関を会員とする。

『図書館情報学用語辞典』第5版より引用



1. IFLAの概要

- 各分科会(Section)は所属する部会(Division)に活動計画・活動報告を行う。
- **書誌分科会(Bibliography Section)**はDivision Hに所属。
全国書誌の促進が主な活動。
- 目録分科会(Cataloguing Section), 主題分析・アクセス分科会(Subject Analysis and Access Section)等の目録に関する分科会やグループと密接に関連して活動。



2. IFLAによる全国書誌の促進

● UBC (Universal Bibliographic Control)

- 各国がそれぞれ全国書誌を整備し, 相互に交換
→国際的な書誌情報の集積に
- 各国で作成した書誌データの交換を促進するために,
目録作成の基礎となるものを共通化
 - ✓ 基本原則
 - ✓ 概念モデル: 目録データに必要なもの
 - ✓ 目録規則: データの入れ方 (何を入れるか)
 - ✓ 記述作成基準: データの入れ方 (どのように入れるか)
 - ✓ データフォーマット: データの入れもの

2. IFLAによる全国書誌の促進

- **相互に連携するIFLA書誌コントロールの取組**

- ✓ 基本原則の共通化：**ICP**（目録分科会）

パリ原則(1961) → 国際目録原則覚書 (ICP : 2009)

※RDA (2010), NCR2018にも反映

ICP (2016改訂) 日本語訳

https://warp.da.ndl.go.jp/collections/NDL_WA_pn_print/info:ndljp/pid/11668867/www.ndl.go.jp/jp/data/basic_policy/international/pdf/NDL_WA_pn_icp_2016-jp.pdf

- ✓ 概念モデルの統合：**IFLA LRM** (BCMレビューグループ)

FRBR(1997), FRAD(2009), FRSAD(2010)

→IFLA 図書館参照モデル (LRM : 2017)

※RDA(2020)に反映済。NCR2018は「今後の課題」

2. IFLAによる全国書誌の促進

- **相互に連携するIFLA書誌コントロールの取組**

- ✓ 記述作成基準の標準化：**ISBD** (ISBDレビューグループ)

- ISBD(M)(1974)：単行資料(≡図書)

- ISBD(G)(1977)：全体概要→順次資料の種類ごとの基準を作成

- ISBD統合版(2011)→2021年改訂版

<https://repository.ifla.org/handle/123456789/1939>

- ※IFLA LRM対応に向けて更なる改訂作業中

- ISBD for Manifestation(ISBDM)

- 2024年5～7月ワールドワイドレビュー予定

<https://www.ifla.org/g/isbd-rg/isbd-for-manifestation-isbdm/>

2. IFLAによる全国書誌の促進

- 相互に連携するIFLA書誌コントロールの取組

- ✓ データフォーマットの共通化(互換性の担保)：UNIMARC
(UNIMARC委員会)

※MARCフォーマット(ISO 2709)に基づく

= 書誌は主にISBD (≡ 体現形)のデータ要素に対応

→IFLA LRM及びRDAへ段階的に対応中

UNIMARC Formats and Updates

<https://www.ifla.org/g/unimarc-rg/unimarc-updates/>

3. 書誌分科会の取組

● 全国書誌とは

- 国家または国の文化的・知的成果を永続的に記録するもの
→その国の文化を映しだす鏡
- 保存し, 継続的にアクセスできるようにするために, 現在の出版物の書誌情報を収集←納本制度等による網羅的な資料収集
- 全国書誌作成機関により, 国際標準に従って作成される

※技術の進歩

- 出版(公開)される資料の拡大(種類も, 件数も)
- 検索エンジンの進化
- リンクトオープンデータ(LOD)
- …全国書誌サービスの再評価が必要

3. 書誌分科会の取組

● UBCに関するIFLA専門家声明(2012)→UBCの価値を再確認

○全国書誌作成機関の責任：

- ・ 自国の出版物の信頼できる書誌データの適切かつタイムリーなサービスを通じて提供
- ・ 自国に関連する著作を含む典拠データの作成→他機関による利用

○IFLAの責任：

- ・ 書誌データ共有の基盤としてのICPの維持及び推進
- ・ 書誌データ, 典拠データの共有を促進するための書誌標準等の推進
- ・ 他の国際機関との協力→図書館以外の標準との連携

IFLA Professional Statement on Universal Bibliographic Control
<https://repository.ifla.org/handle/123456789/448>

3. 書誌分科会の取組

● 全国書誌を促進する取組 (1) 全国書誌作成・提供のガイドラインの提示

① デジタル時代の全国書誌(2009)

② デジタル時代の全国書誌作成機関のためのベストプラクティス
(2014-2017)

③ デジタル時代の全国書誌のためのコモンプラクティス(2022)

国によって異なる財政的、法的、実践的な制約

→ 多くの選択肢を提示(ベストプラクティスからコモンプラクティスへ)

There is no single “Best practice” but many good practices. (1.3節)

① 日本語訳 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9454266>

③ Common Practices for National Bibliographies in the Digital Age (原文)

<https://repository.ifla.org/handle/123456789/2001>

3. 書誌分科会の取組

● 全国書誌を促進する取組 (2) 全国書誌登録簿

- 各国のプロファイルを掲載…各国がどのような全国書誌を作成しているかがわかる
- 統計あり(2021年8月時点)
- 2024年2月現在, 52か国公開。積極的な登録・更新を呼びかけ中

National Bibliographic Register

The following profiles have been contributed to our register of national bibliographies. Each is followed by the year last updated.

<https://www.ifla.org/g/bibliography/national-bibliographic-register/>

3. 書誌分科会の取組

● 全国書誌を促進する取組 (2) 全国書誌登録簿

National Bibliographic Register

The following profiles have been contributed to our register, followed by the year last updated.

- Andorra (2023) **New!*
- Australia (2012)
- Austria (2023) **New!*
- Belgium (2022)
- Belize (2012)
- Bermuda (2012)
- Brazil (2012)
- Japan (2023) **New!*

Japanese National Bibliography

Title	The Japanese National Bibliography (JNB)
Web site address	The JNB web page: https://www.ndl.go.jp/en/data/data_service/jnb/index.html NDL Search: https://iss.ndl.go.jp/?ar=27d7&locale=en NDL Online: https://ndlonline.ndl.go.jp/#!/?!?lang=en
Start date	began 1948
Period covered	1868 to date
Current size	About 8 million
Media covered	Books, serials, materials for people with visual impairment, packaged digital publications, maps, audio-visual materials

2023年12月までの状況
→ 要更新

4. これからの「全国書誌の促進」

● これからのUBCは？—IFLA大会サテライトミーティング (2023)

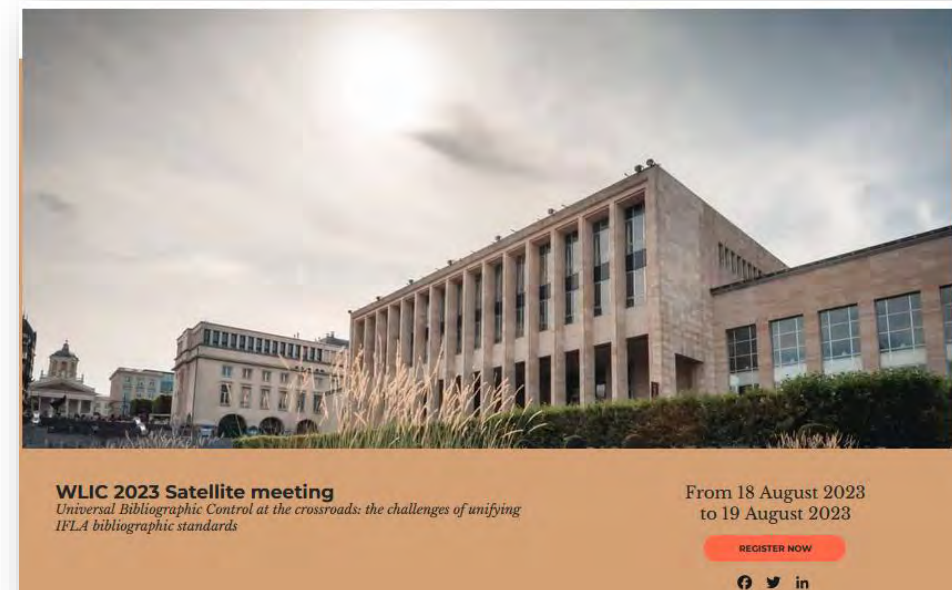
岐路に立つユニバーサル書誌コントロール(UBC)

- 書誌分科会, 目録分科会, 主題分析・アクセス分科会共催
- UBCは今後も必要だが, 時代に合わせた更新が必要
- コントロールより相互運用性の担保が重要
→書誌分科会では, 会議での議論を踏まえ
新しい技術等に対応するためのWGを組織
(アクセシブルな資料, 生成AI等)

<https://www.kbr.be/en/agenda/wlic-2023-satellite-meeting/>

(参考) 第88回IFLA年次大会目録分科会<報告>

<https://current.ndl.go.jp/e2663>



4. これからの「全国書誌の促進」

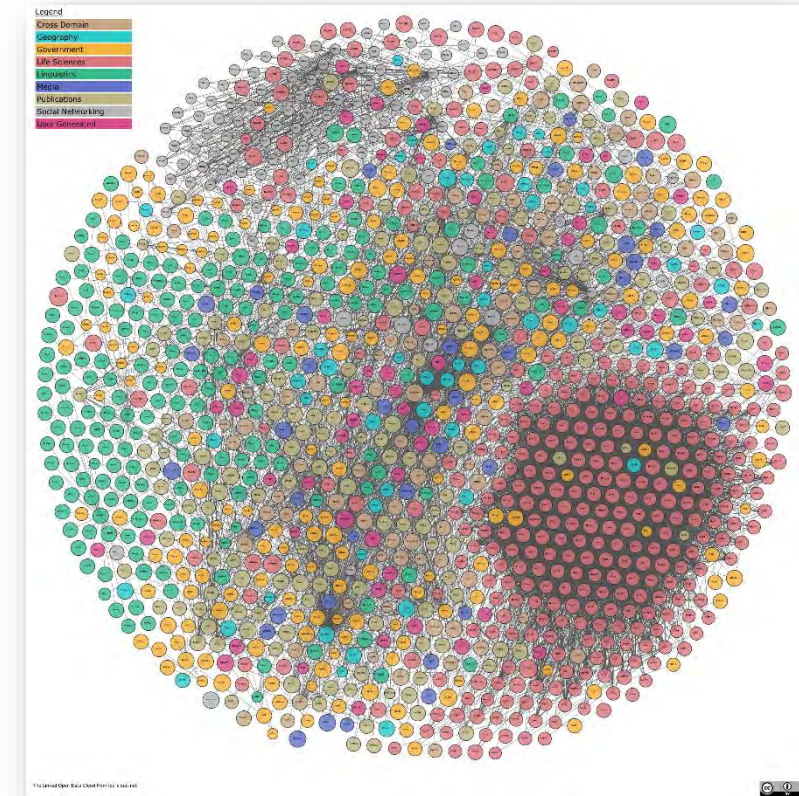
●おわりに：今なぜ再びUBCなのか（私見）

- ・公開される資料の増大・多様化, コスト削減
→確かな品質のメタデータの共有が必要
- ・メタデータどうしがつながることで

利用者の発見可能性を高める

→UBCの方向性は時代遅れなものではないが
時代に合った手段でなければ達成できない

The Linked Open Data Cloud from lod-cloud.net
<https://lod-cloud.net/versions/2023-09-03/lod-cloud.png>





ご清聴
ありがとうございました

